

令和8年度 京都府立須知高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p><b>【社会的役割】</b> 食品科学科・普通科を設置する高校として、各学科の特長や専門性を活かしながら探究活動や学習に取り組み、確かな学力や専門的な知識・技能を身に付け、自ら主体的に考え行動できる人材を育成する。</p> <p><b>【教育活動の方針】</b> <b>1 育成を目指す資質能力に関する方針(このような力を育てます)</b> ・自主・規律・誠実の精神を持った社会性を身に付け、夢に向かって何事にも挑戦する意欲や力を育成する。 ・地域に学び、地域や地元企業と連携した取組を通して、探究心を身に付けるとともに、課題解決に向けた実践力やコミュニケーション能力を育成する。 ・高い志を持ち、自ら考えて行動し、主体的にリーダーシップを発揮して地域社会を牽引する力を育成する。 ・生涯にわたって主体的に学び続け、社会に貢献できる資質の高い人材を育成する。</p> <p><b>2 教育課程の編成及び実施に関する方針(このような教育活動を行います)</b> ・日本三大農業教育発祥の地「京都府農牧学校」以来の歴史と伝統を引き継ぐ。 ・京丹波町をはじめとする地域住民・企業等と密接に連携した探究活動を取り入れ、主体的・協動的に学ぶ機会を多く設ける。</p> <p><b>【食品科学科】</b> ・食品の開発や生産を通して、食農に関する知識や技術を習得し、産官学民連携を推進することで地域に根ざし創造的・実践的な態度を育成する。 ・地域資源を活用した実践的な学びや課題研究を通して、持続可能な食の未来を創造し、プロフェッショナルとして社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p><b>【普通科】</b> ・「総合的な探究の時間」や課外活動を通して、自己理解と社会理解を深める。また、全ての教育活動における主体的・協動的な学びを通して、課題解決に向けた実践力・応用力の育成を図る。 ・少人数・習熟度別授業、進路に応じた選択科目、ICTの利活用、きめ細かな学習サポートなど、学びの個別最適化を図る。</p> <p><b>3 入学者の受入れに関する方針(このような生徒を待っています)</b> ・本校の教育内容に興味・関心を抱き、専門分野の学習や探究学習に積極的に取り組むことができる生徒 ・本校で学んだ知識や技術を、将来にわたり地域社会の発展に活かそうとする意欲がある生徒 ・夢と希望を持ち、自ら学び自らを高め、自分の未来を切り拓こうとする生徒 ・高い志を持ち将来の進路について明確な目的意識を有し、最後まで努力できる生徒 ・学習、部活動、生徒会活動等に積極的・主体的に取り組むことができ、学校生活全てに強い活動の意欲を持つ生徒</p>	<p><b>【成果】</b> ◆京都フロンティア校として、個別最適な学びと地域とつながる協動的な学びを推進し、生徒の学力向上と希望進路の実現に成果を挙げた。 ◆普通科・食品科学科の教育内容充実に伴い、スクール・ポリシーを見直した。 ◆ICT、いじめ防止、探究、大学入試制度、多様性・ハラスメントなど、教職員研修を充実させ、教職員の資質向上を図った。 ◆探究活動や食品加工開発、地域資源を活かした学習など、地域連携・地域貢献の取組が深化した。 ◆農業クラブの大会入賞、菊づくりでの全国最高位受賞、ホッケー部の世界大会やインターハイに出場、生徒の活躍が顕著であった。 ◆普通科と食品科学科の探究活動の合同発表会など、学科を越えた学びの交流が進んだ。 ◆SNSを活用した広報の充実、地元中学校との連携深化を図ることができた。 ◆「須知高校魅力化プロジェクトビジョン」を策定するとともに、京丹波町と連携した魅力化の取組を推進することができた。 ◆京都府農牧学校創立150年記念事業実行委員会を設置し、事業実施に向けた体制を整えた。</p> <p><b>【課題】</b> ◆スクール・ポリシー・スクールミッションに基づく組織的・計画的な教育活動の推進 ◆生徒の実態に応じた、きめ細かな学習指導・生徒指導の一層の充実 ◆家庭学習習慣の定着と、進路実現に向けた高い志や目標の育成 ◆規範意識・モラルを育む指導の強化 ◆部活動加入率の向上と活性化 ◆創立150年記念事業を通じた歴史・伝統の継承と学校の発展 ◆地域との信頼関係を深め、地域とともに歩む学校としての役割強化 ◆京丹波町立中学校からの志願者増加に向けた取組の強化 ◆「須知高校魅力化プロジェクトビジョン」の継続的推進</p>	<p><b>【学校経営主題】</b> 「社会の変化に主体的に対応し、地域とともに未来を創る魅力ある学校づくり」</p> <p><b>【重点項目】</b> 1 生徒の個性や能力を最大限に伸ばす、時代の変化に応じた個別最適な学びの充実 (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育内容の充実を図るとともに、ICT教育を一層推進する。 (2) 個々の生徒の実態に応じたきめ細かな生徒指導・学習指導等について、関係分掌との連携を強化する。 (3) 家庭学習習慣の定着を図り、自分の将来を見据えて高い志を持ち、進路に対して主体的に挑戦する力を育成する。 (4) 教科横断的な「総合的な探究の時間」の指導体制のさらなる充実を図る。</p> <p>2 地域と共に歩み、信頼され、魅力ある学校づくりの推進 (1) 京丹波町をはじめとする地域住民・企業等と密接に連携した探究活動を取り入れ、主体的・協動的に学ぶ機会を充実させる。 (2) 食農に関する知識や技術を習得するとともに、産官学民との連携を一層強化し、各教科・科目の学習内容の充実・深化を図る。 (3) 京都府農牧学校設立150年の節目にあたり、本校のさらなる発展につながる記念事業となるよう、実行委員会と連携し取組を推進する。 (4) 京丹波町と連携し、「須知高校魅力化プロジェクトビジョン」の具体的な推進を図る。</p> <p>3 生徒指導と部活動等の充実による学校の特色化 (1) 本校の生徒としての自覚と誇りを持ち、責任ある行動をとる態度を育成する。 (2) 全ての教育活動を通して、全教職員が一体となり、生徒の人権意識や規範意識の涵養を図る。 (3) 部活動、農業クラブ活動、生徒会活動を活性化し、生徒の自主性・主体性を育成する。 (4) ホッケー部員の全国募集及び全国大会入賞を目標に、本校の特色化を推進する。 (5) 茶道、古典、和知太鼓等の伝統文化に関わる教育活動の継承・発展を図る。</p> <p>4 戦略的な生徒募集活動と情報発信のさらなる強化 (1) 中学生のニーズに応じた生徒募集活動を一層推進するとともに教育ニーズの適格な把握に努める。 (2) 地域の他校種とのさらなる連携による取組を推進する。 (3) 学校ホームページ、Instagram、須高通信、須高だより、農場だより、学校紹介動画等を活用し、本校の特色ある教育活動を積極的に発信し、生徒募集につなげる。 (4) 京丹波町と連携した生徒募集活動を推進する。 (5) 報道機関(新聞、京丹波町ケーブルテレビ・広報誌等)を通じて、教育活動に関する情報発信を積極的に行う。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
教務部	学習指導要領の趣旨に対応した取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開授業旬間の在り方を見直し、授業参観後の協議・フィードバックを充実させ、教科横断的な指導力向上につなげる。</li> <li>デジタル探点ナビ・Teams・ロイノート等の効果的な活用事例を共有し、授業の深化と業務効率化を図る。</li> </ul>		
生徒指導部	生徒の主体性を育てる取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会本部役員、各専門委員会、各クラス代議員が中心となり、生徒が主体的に行事を運営できるよう支援及び指導を行う。</li> <li>学校行事等の活動を通して、計画的に行動する力やコミュニケーション能力の向上を図る。</li> </ul>		
進路指導部	進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導部内で情報を共有することで、進路指導部として一貫した指導を実践する。</li> <li>各分掌（特に学年団）と協力し、進学・就職に関する進路情報を的確に生徒や教職員（特に担任）へ提供し、生徒それぞれの将来設計や進路実現をサポートする。</li> </ul>		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
保健部	生徒の健康状態の適切な把握と適切な対応・支援	・感染症情報システムなどを活用し、教務部・担任との情報共有のもと、体調不良者や欠席者、欠席理由を把握する。 ・必要な健康診断を全員が受けて、必要な対応や受診、治療につなげる。		
人権教育部	人権学習の推進と人権意識を高める取組の推進	・各学年ごとに発達段階に応じた人権学習を実施することにより、基本的人権を正しく理解させ、学校生活の中で人権を意識した行動ができるように支援する。 ・いじめを絶対ゆるさない環境作りを全教職員で行い、アンケート等を通じて早期発見に努め、情報共有を行う。		
農場部	食品科学科の特色を活かした取組の推進と地域連携の充実	・販売会や課題研究活動などを中心に地域との連携活動を推進し、地域にとって魅力ある学校づくりを目指す。 ・各種発表会やコンテストに積極的に参加し、学習の成果を広く発信する。各コース2つ以上にエントリーする。		
第1学年部	基礎学力の定着及び向上	・日々の授業に集中できるよう、学習環境を整える。また、学習用端末やスタディサプリの効果的な活用法を身に付ける。		
	基本的な生活習慣の確立	・日々の生活リズムを整え、体調管理に気を配ることで、遅刻や欠席の時間を減らすことができるよう努力する。		
第2学年部	各自の進路実現に向けた学力の伸長及び学習習慣の定着	・日々の授業や講習、自主学習や家庭学習などの学習機会を大切にし、学力を向上させるよう努力する。		
		・進路実現の可能性を広げるため、模擬試験や資格取得、課外活動などに積極的に取り組む。		
第3学年部	希望進路実現のために必要な力の習得	・進路実現に向けて明確な目標を持ち、学力をさらに向上させる。 ・心身の健康管理に努め、適切な生活習慣を身に付ける。		
事務部	学校経営という視点を持った予算の執行	・特色ある学校づくりを進めるため、各分掌・教科や各種事業担当等と積極的に連携を図り、財政的な面から学校運営の一翼を担う。 ・学力充実・向上のための予算の重点的な措置を行う。		
国語科	「ことばの力」を基軸とした基礎学力定着と学力伸長	・基礎学力の定着を目指して、学習用タブレット・学習補助プリント・補習等を適宜活用し、個々の生徒に合わせたサポートを行う。		
		・実社会に必要な国語の知識・技能の定着を図り、言葉によって、他者の考えや思いを適切に理解したり、自身の考えや思いを効果的に伝えたりする力を養う。		
地歴公民科	進路実現に向けた学力の向上	・主体的、対話的で深い学びにつながる授業実践の工夫をする。 ・暗記だけでなく思考・表現力を培うことができるよう、定期考査の工夫をする。		
数学科	学力『保障』	・ロイロノートやスタディサプリー等ICTを積極的に活用して、学び直しや基礎学力の定着を図る。 ・少人数授業を活かして、個別最適な指導や支援を充実する。		
理科	基礎学力の定着及び向上	・授業を通して個々の生徒の学力を適宜把握し、それぞれに適切なサポートができるようにする。		
		・必要に応じて個別指導を行うことで、生徒の学習意欲に応えられる環境をつくる。		
保健体育科	心身の健康の保持増進と体力の向上	・自らの体力に適した運動負荷により、体力を向上させる意識を持たせる。 ・協働性・挑戦する力を高め、スポーツ・運動の楽しさを味わう。		
芸術科	専門的な知識と技術の習得	・生徒の長所を積極的に言葉にして伝え、生徒の自己肯定感を高める。		
		・演奏発表や作品展の機会を作り、多くの人に学習の成果を披露する。		
英語科	基礎学力の定着と進路実現に向けた学力の伸長	・ICTを効果的に活用し、基礎・基本の理解促進を図る。 ・少人数授業の利点を生かし、ていねいで個別最適な指導を充実させる。		
家庭科	生活を主体的に営む力の育成	・生活の中から題材を選び、授業と生活の関連性を感じられる授業を展開する。 ・基礎的知識・技術を習得し、自立的な生活力の向上につなげる。		
農業科	専門的な知識と技術の習得	・BYODやICT機器を効果的に活用し、知識・技術を高める授業を展開する。 ・社会人講師を計画的に活用し、専門的な知識・技術の深化を図る。		
情報科	情報社会を生き抜く能力の育成	・コミュニケーションの手段としての情報の特性を理解し、円滑に活用する力を育成する。		
		・個人情報扱いや知的財産権の保護など、社会的責任を伴う問題であることを理解し、自覚を促す。		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
1年 総合的な探究 の時間	非認知能力を向上させる力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット・図書・新聞等の活用やグループワーク等を通して、必要な情報を収集する力を身に付ける。</li> <li>・「総合的な探究の時間」の諸活動に主体的・協働的に取り組み、自らの思いや考えを適切に表現する力を身に付ける。</li> </ul>		
2年 総合的な探究 の時間	課題の発見・問題解決の能力や自己表現力の習得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自ら立てた課題の解決に向けて、主体的・協働的に学習を進める。</li> <li>・情報収集・整理・分析やグループワーク・プレゼンテーション作成等を通して、自身の考えをまとめ、表現していく機会を作る。</li> </ul>		
学校関係者 評価委員会 による評価				
次年度に 向けた改善の 方向性				